

会員（アイウエオ順）

新井 計 治	伊 藤 洋	岩 瀬 孝	大 越 敏 男
小 林 卓	神 保 剛	鈴 木 美 穂	関 根 敏 子
関 谷 苑 子	千 石 玲 子	竹 田 宏	戸 口 民 也
野 池 恵 子	橋 本 能	皆 吉 郷 平	

後記

6年振りによろやく再刊に漕ぎ着けて、ひとまずほっとしている。創刊1号以来毎回書いているのが、橋本、野池の両氏。小林氏は長期療養を要する病のため休筆。再起を待つ。小生は力足らず脱落。戸口氏は他会員の怠惰に業をにやして原稿を別誌へ。戸口、ごめんなさい。そして新たに強力二新人の登場。料理研究家でもある千石氏は、トマ・コルネイユを狙上にラシーヌ風包丁さばきや如何。舞台にも立つ鈴木氏は、ロトルーの舞姫流読み方の見せ場はアイデンティフィケーションか。さらに今回の大目玉と秘かに誇る梗概集。研究会が始まって早や16年、すでに取り上げた作品数も優に百本は越える。次号より毎回掲載予定、乞うご期待。

ところでこの6年間、研究会の方は相変わらずしつこく続けられている。しかもメンバーに若い諸君一新井、大越の両君が加わり、以前にもまして活況を呈している。ここ2・3年の傾向として、従来のスペクタクル性の追求を、宮庭バレエ、機械仕掛け芝居やオペラの領域にまで視野を拡げて議論することが多い。それには音楽の専門家である関根氏の参加が与って大きい。この方面にご関心のおありの研究者諸氏、我らが研究会にどうか気楽におみえになりませんか。

さてこの『エイコス』も今後、有能な新人もふえたことでもあり毎年とは確約できませんが、随時刊行してゆく所存ですので、以前にもまして、ご批判、ご支援を賜わりますようお願い申し上げます。

(G. M.)